

『禅のこころ-曹洞宗-』

はっしょうどう
八正道

平成29年6月第4週放送

お釈迦さまは、生まれてから、老いて、病^{やまい}になり、亡くなるという私たちの一^{いつしやう}生は苦しみに満ちているものだという事を、自分の事として深く思い悩み、出家をされました。そして、六年間の修行の末^{すえ}、苦しみとは何か？ その苦しみの原因や条件とはどのようなものか？ 苦しみの消えた状態とはどのようなものか？ 苦しみの原因や条件を滅^{めっ}するためにはどのような道があるのか？ を考え、真理を見出しました。そしてこれを実践することにより、生きること、老いること、病^{やまい}になること、死をむかえることの苦しみを乗り越える、つまり解脱^{げだつ}をし、自らの「さとり」を完成しました。

そして、その苦しみの原因や条件を滅^{めっ}するための実践を、八つの正しい道、「八正道（はっしょうどう）」として説かれます。

それは次のような事です。

第一は、正しく見ると書いて「正^{しょうけん}見^{けん み}」です。見^{けん}は見かた。正^{しょうけん}しいもの^みの見かたという意味です。

第二は、正しく思惟^{しゆい}すると書いて「正^{しょうしゆい}思惟^{しゆい}」です。正^{しょうしゆい}しいとらえ方という事。

第三は、正しい語^{かた}り^{しょうご}と書いて「正^{しょうご}語^ご」。正^{しょうご}しい言葉^ごという意味。

第四は、正しい業^{ごう}と書いて「正^{しょうぎやう}業^{ぎやう}」。正^{しょうぎやう}しい行い。

第五は、正しい精^{しょうじん}進^{しょうじん}と書いて「正^{しょうじん}精^{じん}進^{じん}」。正^{しょうじん}しい努力。

第六は、正しい命^{いのち}と書いて「正^{しょうみやう}命^{みやう}」。正^{しょうみやう}しい生活。

第七は、正しく念^{ねん}じると書いて「正^{しょうねん}念^{ねん}」。正^{しょうねん}しい気づき。

そして第八は、正しく定^{さだ}まると書いて「正^{しょうじやう}定^{じやう}」。正^{しょうじやう}しい精神統一^{しんせい}です。

これらは、道徳的にちゃんとしなさいと言っている言葉ではありません。

それぞれの言葉の頭^{あたま}にある「正^{しょう}」、「正^{しょう}しい」という意味をあらためて考えてみましょう。正^{ただ}しさの基準^{きんか}は人の考えや文化、地域や時代などによって異なります。正^{ただ}しいということは、お釈迦さまの教えに照らして、自分中心の誤^ごった見^{けん}解^{かい}を捨てる事。そして一つに偏^{かたよ}ることのない客観^{かくかん}的なもの^{けんか}の見方^{けんか}をすること。

その教えの基本となるのが、世の中は常に原因と結果の繰り返しで変化し続けており、止むことは無いという事実であり、すべてのものに実体は無いので、自分というものや自分のものであるという執^{しゆうちやく}着^{ちやく}は意味のないものであるということ

『禅のこころ-曹洞宗-』

す。その見解に^{もと}基づいた実践が「八正道（はっしょうどう）」なのです。
あらためて、お釈迦さまに近づく道の実践を心がけてみましょう。

— 終 —